



元気なコミュニティだより

二宮町百合が丘 2-29-6(2丁目会館) 090-5211-6891 <https://gen-comi.jp>



団地再生の助成内定

県営コミュニティルーム等に投入へ

ゲンコミは、国交省が R6 年度に実施する「住宅団地再生に向けた住民活動の調査事業者」に選出された。このほど二宮町を通じ、申請していた取り組みを認めるとの連絡があった。提出した必要経費は約 370 万円。ゲンコミはこれらを原資に、新年度の最大事業である県営二宮健康団地コミュニティルーム(CR)・広場を活用した地域づくりを軌道に乗せたい考えだ。

同事業は、高度成長期に開発されたニュータウンのオールドタウン化に伴う活力低下を、当該地域の住民活動に対するバックアップをてこに活性化しようというもの。全国で 10~30 団地を対象に域内団体を支援する。ゲンコミではこうした事業は前身の地域再生協議会を含めた組織方針と合致し、これまでの事業展開をステップアップできるとの判断から、2 月末に取り組み案を提出していた。

その内容は、里山健康団地(仮称)構想の取りまとめ、健康チャレンジパーク計画、健康・医療サービス供給体制の検討、大手医療機関へのアクセス検討、ゲンコミの社団法人化、ワークショップやシンポジウムの開催など。音楽活動、生涯学習などの既存活動をベースにするが、中でも神奈川県から無償貸し出しを受ける二宮健康団地の CR・広場事業の振興を最重点に置く。スペース利用の支払いはないものの、インフラ経費を負担したうえで安定運営する必要があるためだ。4 月以降、提出済み案について詳細な詰めを行い、R6 年度の主力事業として推進する体制を整える。

空き家対策、友情の山、こども部会を廃止

ゲンコミは 3 月初めに開いた部会長会議で、上記 3 事業部会の廃止を決めた。現在、これらを含めた 7 事業部会体制で臨んでいるが、R6 年度は音楽活動、生涯学習、デジタル、健康団地 CR の 4 部会にスリム化した事業展開になる。空き家対策はこのところの住環境変化を受け、年度当初から R5 年度末での廃止が固まっていた。友情の山部会の廃止は空き家と同じく、地域再生協議会からの継続事業なものの、町が導入を進めてきたコミュニティスクールの本格化に伴い、一色小 CS の中に組み入れた方が効果的との考えから関係者との話し合いで決めた。ゲンコミは再生協議会時代を合わせてヤマユリや山野草の育成、伐採などに 200 万円近い費用を投入してきた。ゲンコミ移行後は、町教育委員会から年間 3 万円の保全予算を得ており、これらや関連の機資材は CS に引き継ぐ。

こども部会はゲンコミになってから発足し、傘下に百合が丘、一色・緑が丘子供会を抱える。また 2 年前からは新聞古紙回収事業を共同で行ってきた。今回の決定は、こども会からの「ゲンコミでの活動は制約が多く、利点に乏しい」との申し入れを受けたもの。連携はほとんどなく、情報発信なども独自で行っており、手ごたえある成果は出ていない。ただ、古紙回収は現行のまま継続することにした。